



みなさまの【支え】から、子供たちの【笑顔】はうまれます。

周りの山々の緑も濃くなり、梅雨の季節に入っていく頃になりました。日頃より本校の教育活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。中央小学校は、保護者をはじめ多くの地域の方々によって、子供たちの教育活動を支えてくださっております。感謝申し上げます。

保護者の皆様には、ご家庭での丁寧な見取りのもと心配なことなどをすぐにご相談いただき、ありがとうございます。学校と家庭、そして地域が一体となって一緒にその子の成長のために何ができるのかを考え、共育を進めていくことが大切であると思います。

見守り隊の皆様には、雨の日も風の日も暑さの厳しい日も、子供たちの登下校に付き添って安全を確保し見守っていただいております。一人一人に声をかけ、コミュニケーションをとっていただき、子供たちも喜んでいきます。また、学校支援ボランティアの募集により、大変多くの方に賛同していただきました。先日、連絡会を行い、子供たちのためにどんなことができるのかを考え今年の計画を立てていただきました。図書、読み聞かせや環境整備、掲示物作成等それぞれのグループでいろいろなアイデアを考えてくれました。そのような環境のもと教育活動が進められることに感謝しております。

今後、子供たちの笑顔、子供たちの活躍、子供たちの様々な場面での様子や子どもの想いやその時感じた感想など心の成長を含め、多くの方に知っていただけるよう、学校だより等で積極的に発信していきたいと思います。中央小学校の子供たちの良さ、すばらしさ、そしてそれらを下支えして下さっている保護者や地域の方々の様子をお伝えしていきます。ぜひ、ご家庭でも一緒に読んでいただきながら、お子様との会話を広げていただけたら幸いです。

5/25(土)地域のかで成り立つ「PTC大会」を開催しました。



藤枝市役所 地域防災課の皆様

中央小の地域に根差した「防災」の話をさせていただきました。子供たちは、防災を自分事として捉え、学んでいました。

課の皆様は、通常の業務の中、事前に中央小を訪れ、付近の写真を撮り、子供たちが親しみやすい内容を用意してくださいました。また、

また、能登の地震の被災地で活躍した「多目的カー」を見学させてもらいました。中央小学区の防災の未来に、子供たちがどう関わっていけるのか、大切な課題に気づくことができました。



6月の行事予定

3	月	チャレンジステージスタート 委員会活動③
4	火	耳鼻科検診 8:30 2・4・5年
5	水	幼小連絡会
6	木	歯科検診 13:30 コスモス・3・5・6年 代表委員会
7	金	交通安全リーダーと語る会 13:30 子どもの安全を考える推進会：議 14:35
10	月	P T Aあいさつ運動 読書旬間（～21日）
11	火	耳鼻科検診 8:30 コスモス・1・3・6年
13	木	ラ・ブック会
14	金	読み聞かせ（低学年） 水曜日課5時間
17	月	読み聞かせ（高学年）ふれあいタイム 水泳指導開始週間 6年食に関する指導 ※朝学習「サイレン確認訓練」
18	火	学校公開日（授業参観）低学年 家庭教育学級開講式 1年食に関する指導
20	木	ペア活動② コスモス買い物学習
21	金	学校公開日（授業参観）高学年 移動図書館
24	月	ふれあいタイム
25	火	にこにこあいさつ運動 5年栄養教諭訪問
26	水	5年生4時間（職員：時間調整）
27	木	5年自然教室 マイジョブ講座（予定）
28	金	5年自然教室

10年後の 藤枝を災害から守る 子どもたち

藤枝市消防団 第1分団3班の皆様

消防分団の皆様には、4つのブースを運営していただきました。水消火器ブースでは、水の出る消火器の使い、コーンをめがけて火を消す活動をしました。子供たちに、そっと寄り添って教えてくれました。



可搬ポンプブースでは、プールの水を吸い上げ、迫力と重みのあるホースを抱え、放水をさせてもらうことができました。この他、煙体験ハウス、簡易担架づくりを行いました。



日頃は違うお仕事をなさっている方々であるのに、凛々しい隊員の姿を見せていただきました。

た。仕事が休みの日には、分団の訓練をなさっていることが伺えました。地域のためにたたかう団員の方々に感謝です。

NPO 法人「災害・医療・町づくり」の皆様

中央小の地域にお住まいの方をリーダーとして、全国で活躍なさっている団体の方々です。応急処置ブースでは、身近な段ボールやガムテープ、サ



ランラップなどを使って、手当をする方法を教わりました。AED ブースでは、音楽に合わせて、心臓マッサージをする練習をし、心肺蘇生を学びました。この他には、トリアージを行うブースもありました。



どのブースも、災害時、子供たちがすぐに行くことではないかもしれませんが、でも、子供たちが大きく成長し、災害を乗り越える場に直面した時、

「共助」の働きかけができる人になれる架け橋となる体験であったかと思います。